

「C 読むこと」



文学的・説明的な文章を学習する「読むこと」の領域では、教師主導の講義形式の授業が多く見られます。これでは、児童生徒にとっての「わかる・できる授業」につながりません。

なぜ、他の領域に比べて、教師主導の講義形式の授業になりやすいの？



**読むことの領域で陥りやすい授業**

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域の学習は、教師の意図にかかわらず、児童生徒が、「話す・聞く」「書く」という言語活動を伴う。しかし、「読むこと」は言語活動を意図的に位置付けないと、言語活動の乏しい授業になってしまう。
- 文学的な文章などは、教材が多様な価値をもつため、教師の説明が多くなり、指導の焦点が不明確な授業になってしまう。
- 日常生活との関連が見えにくいため、実感が伴わない授業になってしまう。
- 教師自身の実践も多いため、過去の指導方法を変えずに授業を行ってしまう。
- 作者のエピソードや主題など、教師がもっている知識を児童生徒に「教えたい」という気持ちが強く働く授業になってしまう。
- 教材をじっくり読み取らせたい（精読や主題読み）という教師の思いが強すぎ、話合いや伝え合いがほとんど見られない授業になってしまう。



単元構想や1時間の授業において、次のことに気を付け改善することにより、「わかる・できる授業」に近づいていきます。

## 単元構想において

- 単元を貫く言語活動を設定する。
  - ・ 身に付けさせたい力に最適な言語活動
  - ・ 児童生徒が「やってみたい」「おもしろそうだ」と思える言語活動
  - ・ 単元を貫いて設定
- 学習の見通しが分かる工夫を行う。
  - ・ 単元構成を工夫（入れ子構造、A Bワンセット方式）
  - ・ ゴールとなる作品等の提示
  - ・ 掲示（学習の流れ、学習のあしあと）
- 並行読書等を単元に位置付ける。
- 評価を工夫する。
  - ・ 単元の評価規準を設定
  - ・ 第三次での作品等を、指導事項に照らして評価



入れ子構造、A Bワンセット方式って何だろう？難しそうだな。

### 入れ子構造

第一次 言語活動 全体の 見通し	第二次 教科書教材で読む ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ 選んだ本の読みに適用する	第三次 互いの読みの よさを味わう
---------------------------	---	-------------------------

並行読書

※ 単位時間の中に教科書と選んだ本の学習を入れる

### A Bワンセット方式

第一次 言語活動 全体の 見通し	A 教科書教材で読む ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ ⇓ 選んだ本の読みに適用する	B 選んだ本の読みに適用する	第三次 互いの読みの よさを味わう
---------------------------	---	-------------------	-------------------------

並行読書

※ 単位時間ごとに教科書と選んだ本の学習を繰り返す



入れ子構造、ABワンセット方式のよさは、「習得」（教科書教材文）と「活用」（自分で選んだ本）のつながりを児童生徒に明確に意識させることができる点です。さらに、教科書教材文を学習する必然性も生まれます。

### 1時間の学習過程において

- 音読の時間を位置付ける。
  - ・ 家庭学習で音読と授業とのつながりを明確化
- 課題意識や目的意識をもち、教科書教材を読むことができるように、第三次の表現活動を明確にする。  
(例) 紙芝居を作る      ペープサートで表現      新聞を作る  
        ポップを作る      リーフレットを作る
- ・ 実物を置くなど、第三次の表現活動を視覚化
- 児童生徒が、主体的に活動できる時間を十分に確保する。
  - ・ 根拠をもとに伝え合う場を設定
  - ・ ペア、グループなどの学習形態を工夫
- まとめから授業を組み立てることにより、めあて、活動、まとめの整合性を図る。
- 感想などのように一つにまとめることができない場合でも、意図的指名により感想等を発表させ、めあてとの関連を確認する。

読むことの学習においては、「教師が教えたい」ことを「児童生徒が学びたい」ことに変える工夫が必要です。そのためにも児童生徒が「やってみたい」「おもしろそうだ」と思える単元を貫く言語活動を設定することが重要です。

